

笑顔がつくる、はつらつ島根。

# とまちやん通信

角ともこ県議会レポート

2014.11 November vol.31

九月定例議会

## 誰もが暮らしがやすい地域づくり 障害がある子どもたちの教育、相談体制の整備

9月11日から10月10日まで定例議会が開かれ、知事から提案のあった委員会委員選任同意案や補正予算など30件、議員提出のがん対策条例一部改正案など6件すべてを可決しました。今回も一般質問に立ち、次の質問をしました。

### 発達障がい児への指導に関する研修の推進

高校へ進学した発達障がいのあるお子さんをお持ちのお母さんから、先生の発達障がいへの理解がなく、子どもが落ち込んでいるという話を聞きました。そこで、障がいがある生徒への指導に関する取り組みについて聞きました。

特別支援教育に関する教員以外の教員への発達障がい児への指導に関する研修はどのように行われているのか。

教育長 公立学校の全ての教員を対象に、初任者研修、及び6年目、11年目の経験者研修の中で特別支援教育に関する研修も実施している。

### 障がい児への性に関する指導と相談体制の確保

発達障がいや知的障がいのある子どもたちの性に対する理解力が不十分なことや、子どもたちへの十分な性に関する指導が行われていないため、性に関するトラブルに巻き込まれる可能性が高いと聞きました。

発達障がいや知的障がいのある子どもたちの性への理解と性に関するトラブルにまきこまれることのないよう、また、性に関する相談体制などを取り組みを聞く。

教育長 発達障がいや知的障がいのある児童生徒には、効果的に視覚教材を提示したり、実際の場面に近い疑似丁寧に個別に対応する

さうに、各公立学校からの派遣要請に応じ、校内研修会に特別支援学校の教員や指導主事を派遣し、全教職員を対象に、発達障がいのある児童生徒への指導等について研修を行っている。また、私立学校からの要請がある場合にも特別支援教育課の指導主事等を派遣している。今後も教職員の障がいに対する理解が一層深まるよう、研修の充実に努めていく。

石川県庁では、建設業の新分野進出の状況や支援事業について説明を受けました。また、建設業の担い手確保が課題にになっているため、出前講座や現地見学など実施して、若い人たちの関心を建設業に向けていく取り組みを紹介されました。

能登半島にある穴水町耕作放棄された農地を再度開墾し、今、キャベツを中心

## 建設産業対策及び文化施設のあり方調査

北陸地方で調査

7月28～30日に石川、福井の両県で、建設環境委員会の今期の調査テーマである「技術力と創意工夫で地域に貢献する建設産業対策」「地域づくりと連携した文化施設の在り方」について調査しました。

石川県では、建設業の新分野進出の状況や支援事業について説明を受けました。また、耕作放棄された農地を再利用するため、穴水町

に足をのばし、農業参入をしている金剛建設の農場に伺いました。17年も

耕作放棄された農地を再

利用するため、穴水町

に足をのばし、農業参入

をしていました。

能登半島にある穴水町耕作放棄された農地を再度開墾し、今、キャベツを中心

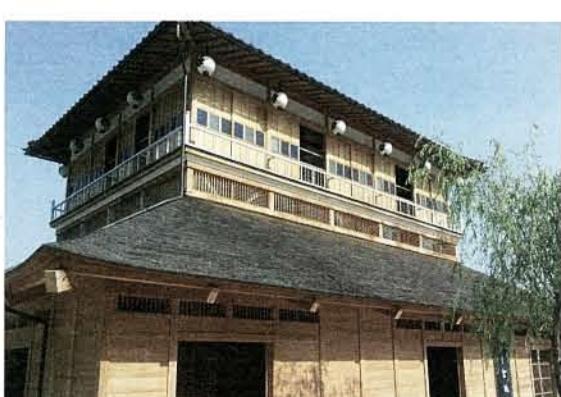
にイチジク、カボチャなどを栽培しています。



議場で一般質問



産業の再生  
最後に加賀建設協会と



新しくなった湯の曲輪を中心にまちづくり



21世紀美術館の調査



金剛建設のカボチャ栽培の農場

笑顔がつくる、はつらつ島根。

# とまちゃん通信

部長とした人口対策本部が設置され、人口減少問題対策への取り組みが始まりました。この問題の解決には女性の視点を生かした議論が必要であり、女性の参画による議論の場をつくることが必要です。

今、介護、医療、保育、教育など女性が多く働く分野のそれぞれに人員確保、そして正規の職員確保が求められています。雇用の確保とその質の確保に県が主体となって取り組むべき時です。地域の課題は地域で解決していく、地域に軸をおいだ政策が求められます。

**重点を置いた取り組みが、今後の社会の発展の鍵だともいわれているが、考え方聞く。**

**知事** 成熟した社会の中でもういうふうにしたら日本の社会がよくなっていくのか、そのためには、国をどういうふうな方向にしていくのか、福祉高負担の仕組みでやつていくのか、そのためには何が必要なのか、あるいはそうした場合に経済全体にどういう影響が及ぶのか、総合的に考えていく必要がある。そうした分野に関心の置き方を従来よりももっと強化していく、集中していく、これは大事なことだと考えている。

夕立数は、本年8月末現在で  
1万7820人。毎年度約6  
千人ずつ増えている状況。  
障がいのある方から、あい  
サポートバッジをつけていろ  
人が増えてきて声がかけやす  
くなつた。自分も障がい者だ

の養成を行ふ際は、障がい者に異なる特性や、それに必要な支援、配慮などを学ぶ講演会とか説明会などの取り組みを続けながら、県民のあいサポート運動に対する理解を深めていきたい。

要な配慮を理解し、日常生活でちょっとした配慮を実践していくあいサポートの活動を通じて、誰もが暮らしやすい地域社会(共生社会)をみんなでつくるしていく運動です。

しやすい地域社会が、ほかにも様々な障がいのある人がいることがわかり、自分でもできるお手伝いをしようと思った。あいサポートの方からは、障がいのある人が困っているのを見かけたとき、自分はあいサポートだからと思い、声をかけることができたといった声を聞いている。

**八月一日から出発す**

放射能被害の現状を  
締めくくられました。

A young man with dark hair and a light beard is looking directly at the camera. He is wearing a white shirt and a dark jacket. He is holding a black microphone in his right hand and a silver smartphone in his left hand. The background is a plain, light-colored wall.

## 地域で安心暮らし 暮らし続けるまちづくり



寧夏大学生島大訪問



逢坂誠一さんと章末交換



圖說(左起)：福娘、熊貓、猩猩

解決には  
女性の声を聞くこと

**「首長の権限強化」で  
教育委員会制度はどう変わった**

分科会に分かれての講義では、埼玉大学高橋哲准教授ら「教育再生実行政策と教育委員会制度改訂二七項」(一九八九年)によると、

護行政が連携し、高齢社会の中には、地域の住民が安心して暮らせるまちづくりの取り組みを話されました。

いずれも、それぞれ関係する機関が一緒になって議論し政策を進めていく、そこには住民も参加しての議論があり活動があるまちづくりがあります。



高橋博士著「植物学」



## 映画吹き替えの録音風景